

専門研修プログラム名	こころの医療センター五色台連携施設	専門研修プログラム
基幹施設名	こころの医療センター五色台	
プログラム統括責任者	佐藤 仁	

<p>専門研修プログラムの概要</p>	<p>研修基幹病院「こころの医療センター五色台」では精神科救急急性期医療病棟を有し、24時間、365日断らない精神科医療を実践しております。またアルコール依存症専門医療機関及び依存症治療拠点病院としてアルコール依存症の患者さんはもとより、昨今問題となっている、ゲーム依存、スマホ依存、またギャンブル依存にも力を入れております。この研修プログラムでは「こころの医療センター五色台」を中心に当法人の関連医療施設である児童思春期の専門外来を有する「五色台クリニック」をはじめ、法人内の精神障害者 社会復帰施設、リハビリ施設、介護施設と連携し、児童、思春期から高齢者まで、様々な年齢層の様々な疾患の症例を経験することができ、また精神科急性期から、回復期、退院後の社会復帰や、リハビリ、就労まですべての病期に関わることができる機会を経験することができるようになっております。精神科医療の臨床の現場で必要とされる知識や技術は基より、精神科医療と真摯に向き合うプロフェッショナルマインドを持つ精神科医を育成することを目的としております。精神科医療において急性期治療が重要であることは言うまでもありませんが、同時に精神疾患は慢性疾患でもあり、この研修プログラムでは主治医として入院期間中のみならず、退院後の社会復帰に向けたリハビリの期間もその患者さんと関わることにより、長期的な視野をもって精神科医療を提供できる医師となること目指します。また当院では入院治療、外来治療ともに多職種連携の医療チームを構成し治療に当たります。主治医は単に薬剤を処方するだけ、精神療法をするだけではなく、チームの一員として、治療構造を考え、時にスタッフを支え、あるいはスタッフに支えられながら、治療が進展することを目指します。チームには家族はもとより、地域や行政のメンバー等治療に有用な資源はすべて活用する必要があります。担当医はチーム医療の要となることが理想と考えます。当プログラムではチーム医療の要となることができる医師を養成することを目指しております。</p>	
<p>専門研修はどのようにおこなわれるのか</p>	<p>症例検討や研修の場として朝の全体会議、毎週水曜日に行われる症例カンファレンス、救急病棟回診や専門療法として集団精神療法とそれを学ぶための抄読会、アルコールリハビリテーションプログラム（ARP）や院内断酒会への参加等があります。中でもその月の担当医師を決め、1つの症例を掘り下げて検討するプシチェックは副院長や五色台クリニックの院長も参加し、研修医にとって時間をかけて症例を検討することで精神療法の奥深さを学ぶ機会となっています。</p>	
<p>専攻医の到達目標</p>	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>精神科領域の全般の基礎知識の獲得、スタンダードな治療の理解と実践。次により専門性の高い専門療法の獲得。</p>
	<p>各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得</p>	<p>症例検討会、児童思春期カンファレンス、集団精神療法の実践と、集団療法抄読会。病棟回診、法人で毎朝行われるスタッフミーティングでの症例検討と治療方針の確認。</p>
	<p>学問的姿勢</p>	<p>医師は生涯学習する習慣が求められる。当院で行われている各種、勉強会、検討会は研修医のみならず、専門医も参加しており共に学ぶ場となっている。研修医にもその姿勢を習慣を身に着けることを目標とする。</p>

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	医師である前に社会人としての一般的モラルが精神科医には必要と考える。専門性の高い職業であるが、その知識が機能するためにはより普遍的な道徳心や、人類愛、自己犠牲の精神が必要と考える。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	・1年目：*指導医の診察に陪席により精神療法の理解し、3-5名程度主治医として担当することにより実践*患者及び家族との面接の実践*疾患の概念や病態の理解があり、標準的な治療(薬物療法を含む)を学ぶ*精神保健福祉法の理解と正しい運用*集団精神療法の理解、Coコンダクターとして参加*精神科チーム医療を理解、患者、家族、多職種連携ケース会議に参加*ピンチェックに事例提示・2年目：*精神科救急の対応を学ぶ*精神科リハビリテーションの理解*患者、家族、多職種連携ケース会議に参加。精神科チーム医療の中心的役割を担う。*集団精神療法において中心的役割を担う*ピンチェックに事例提示
	研修施設群と研修プログラム	五色台クリニック・東京都立松沢病院・東京医科大学病院・のぞえ総合心療病院・のぞえの丘病院・香川大学医学部付属病院・さっぽろ香雪病院
	地域医療について	介護老人保健施設五色台、有料老人ホームさぬきのくに、精神障害者グループホーム五色台等と連携して地域医療について学ぶ。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者(佐藤仁)およびプログラム管理委員会で定期的に評価し、改善を行う。	
修了判定	研修プログラム委員会にて行う	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成、見直し、専攻医がプログラムを確実に実行できているかの確認とその評価
	専攻医の就業環境	他の常勤医と同様の労働条件に加え、研修プログラムは勤務時間内に行うこととする。
	専門研修プログラムの改善	総合的な見直しは年度末に行い、また問題点が出た場合は専門研修管理委員会を臨時開催し、プログラムの改善に努める。
	専攻医の採用と修了	一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。研修終了時の評価、判断は指導医の報告書を基に専門研修管理委員会で行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	研修が何らかの理由で休止、中断された場合は専門研修管理委員会に状況を報告し、その後再開、プログラムの移動、プログラム外の研修に関してはその都度臨時の専門研修管理委員会を開催し、検討することとする。
	研修に対するサイトビジット(訪問調査)	専門研修管理委員会は院内、院外の有識者で構成された研修に対するサイトビジットを行うことを目的とした第三者委員会を立ち上げ、訪問調査を依頼する。

<p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。</p>	<p>佐藤仁（院長・プログラム統括責任者）、前田正人（副院長・プログラム 担当者・指導責任者）、伊達健司（診療部長）、間嶋崇宏（医長）、森岡 久雄</p>
<p>Subspecialty領域との連続 性</p>	<p>日本精神科医学会、認知症臨床専門医の取得、日本集団精神療学会認定 グループサイコセラピストの取得、日本児童青年精神医学会 認定医、子 どものこころ専門医機構、子どものこころ専門医の取得</p>